

平成 24 年度 活動報告書

[] 協議会内活動

1. 第 15 回代表者会議

会則の定めにより 5 月定例の代表者会議は、平成 24 年 5 月 20 日(日)かながわ県民センターを会場とし、横浜市に於いて初めての開催となった。当日は代表者会議と拡大写本のつどいとの同時開催が計画通りに実施された。

午前中は全国拡大教材製作協議会の代表者会議の審議が行われ、平成 23 年度活動報告及び決算報告、平成 24 年度活動計画及び予算、世話人の選出等関連事項について世話人会提案通り承認された。席上、土屋 宏代表がご高齢を理由に代表世話人を辞任された。

代表者会議と並行して平成 24 年度「拡大写本のつどい」神奈川大会が開催され、「原点にもどる」をテーマとして、ボランティアによる拡大教科書製作の今後の展開について、真剣な討議が行われた。

2. 世話人会の開催

東京都障害者福祉会館に於いて平成 24 年 4 月～25 年 3 月の間、隔月(奇数月)第 4 水曜日の開催を原則として定例的に 6 回、臨時の会を 4 月、6 月、10 月、1 月、2 月に計 6 回開催した。定例会議では協議会の円滑な運営について及び今後の活動の方向性の協議、臨時会では代表者会議の準備や新しい勉強会開催の準備や整理をするなど行った。

3. 会報の発行

平成 24 年度は予定の通り 3 回の発行になった(第 41 号・7 月、第 42 号・11 月、43 号・3 月)。

グループ紹介、協議会の活動状況報告、世話人会の開催状況などを協議会会員向けに広報するとともに外部関係者の理解を深めるのに役立てることが出来た。

4. 拡大教科書製作についての照会・紹介活動

25 年度用拡大教科書の照会件数は標準拡大教科書の発行が促進され、大幅な減少傾向となった。3 月末までに延べ 40 件ほどの照会に止まった。内容については標準拡大教科書でカバーされない分野すなわち白黒反転、文字サイズの大きいものに集中した。また、新高校生、特別支援学校、養護学校などからが主な問い合わせ先であった。

その他拡大教科書に関する白黒反転の技術についての会員からの問い合わせが目立った。

会員から製作の機会を得たいとの問い合わせも多くあり、協議会としてもそれに応

えられないもどかしさがあった。

5．勉強会の開催

教科書以外の拡大本製作に関する著作権対応についての勉強会を1月23日東京都障害者福祉会館において開催した。当初の期待を超えて37グループ90余人の参加をいただいた。講師にお迎えした笹本雄司郎先生の熱意によって詳細な準備をしていただいたおかげで内容についても好評を得た。富士ゼロックス社からもご出席をいただいた。

6．十周年記念誌のCD版の発行

皆様から原稿をいただいたままになっていた協議会発足十周年の「記念誌」をCD版に編集して発行し配布した。

[] 対外活動

1．文部科学省との交流

拡大教科書用の原本教科書およびデジタルデータの提供が円滑に実施されるよう[教科書課教科用特定図書電磁記録係]との情報の交換ができた。

2．教科書協会および全国教科書供給協会との交流

利用者の視点にたつてその状況に適応したボランティアの製作の拡大教科書の提供と出版社の標準拡大教科書の提供との適切な役割分担について検討する状況が生じている。

3．富士ゼロックス社との交流

富士ゼロックス社からは例年と同様のコピー機使用のご協力をいただくとともに、文部科学省からの教科書デジタルデータ提供について、ご協力をいただいた。デジタルデータ提供の条件の中で、契約期間がボランティアにとって必要使用時期との狭間に入る時期があり課題となっている。

4．ジャストシステム社との交流

拡大教科書製作に多く活用されているワープロソフトおよびOCRソフトの無償提供の協力をいただきつつ、協議会活動への理解を推進した。

5．文部科学省の委託研究事業として、慶応義塾大学の中野先生は「拡大教科書の提供システム」に関する調査研究を進められ、このプロジェクトに引き続き参加した。

6．利用者への情報提供

協議会事務局は全国の学校・教育委員会等から拡大教科書に関する相談、問い合わせを受け、会員間の情報ネットを活かした協力によって積極的に対応することが出来た。

以 上